

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2022
7月号
No.753



さつまいもの定植作業を行う生徒(堺市立横塚台小学校)

マンスリーレポート 2

- ・JAあわ市で「阿波山田錦」田植え交流会
- ・新組合長紹介
- ・第15回徳島県JA農産物検査員育成研修会開講
- ・JAアグリあなで移動販売車「スマイル号」導入
- ・堆肥入り水稻一発肥料(エコケッコ〜一発)実証試験
- ・JA名西郡(神山町)で日扇(ヒオウギ)の出荷最盛期
- ・大阪の小学生が農産物の食育学習
- ・徳島県産食材の消費拡大推進活動
- 「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」キャンペーン

営農コラム 6

旬の野菜でおうちごはん 7

・茄子ピザ

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 8

・その⑭ ～ニコニコすだちくん～

交通安全のお知らせ 8

・交通マナーアップ推進県民運動

トピックス 9

マンスリーレポート

～安全・安心な酒米づくりを実践～

JAあわ市で「阿波山田錦」田植え交流会



汗を拭いながら田植えを行う参加者

6月10日、JAあわ市主催による酒造好適米「阿波山田錦（あわやまだにしき）」の田植え交流会が同JA本所会議室および管内の圃場で開催され、全国の酒蔵や管内の生産者、当県本部などから33人が出席しました。

今年は県外の酒蔵も参加し、3年ぶりに関係者全員が参加する田植え交流会となりました。

交流会では、吉永博明参事から酒蔵に向けて栽培状況等の説明をおこない、酒蔵からは販売状況の報告がありました。

交流会終了後、参加者は管内の圃場で、梅雨空のじめじめ蒸し暑いなか、汗を拭いながら一株一株丁寧に手植えにより田植え作業を体験しました。当県本部からは、新入職員6人が研修の一環として農業体験を兼ねて参加し、初めての手植えをおこない貴重な経験をすることができました。

JAあわ市（旧JA阿波町）では、平成7年（1995年）から品質を重視した阿波山田錦の本格的な栽培に取り組んでいます。酒蔵と生産者、JAがお互いの顔が見える信頼関係の中、安全・安心な酒米づくりを実践しています。



あいさつを行うJAあわ市前田組合長



交流会の様子

新組合長紹介

JA徳島北で新しい組合長が選任されましたので、新組合長を略歴とともにご紹介します。



あらた ひろあき

JA徳島北代表理事組合長 **荒田 宏明**

〔略歴〕

昭和55年6月	JA堀江入組
平成16年7月	JA堀江理事信用部長
平成25年7月	JA徳島北本所金融部長
平成28年7月	JA徳島北参事（金融担当）
令和元年6月	JA徳島北代表理事専務
令和4年6月	JA徳島北代表理事組合長

～信頼される農産物検査員の養成へ～

第15回徳島県JA農産物検査員育成研修会開講

6月21日、徳島県JA農産物検査協議会（会長＝JA徳島市・井河勝淑営農経済部長）と当県本部は、徳島県JA会館にて「令和4年度第15回徳島県JA農産物検査員育成研修会」の開講式をおこないました。

既存登録検査機関の農産物検査員の育成は平成19年度以降、民間機関による育成研修への道が開かれたことにより、当研修会は農産物検査員の確保・養成を目的として毎年開催しています。

本年度の研修会には、県内の9JAおよび当県本部から16人が受講し、6月21日から7月22日までの延べ21日間に農産物分析や鑑定実習などの基礎課程講習を経て、農産物検査員としての知識や技能、検査方法などを学びます。

開講式では、当県本部米穀畜産部の新見和義部長が「農家組合員・消費者から信頼される検査員になれるよう研修に臨んでいただきたい」とあいさつをおこないました。

新型コロナウイルス感染防止対策により、受講者は三密に配慮した会場で、真剣に講義や鑑定実習などに取り組んでいました。



あいさつを行う米穀畜産部の新見和義部長



農産物分析を行う受講者

～徳島県下JAで初の試み～

JAアグリあなんで移動販売車「スマイル号」導入

6月6日、JAアグリあなは、上那賀地区のみなさんに食料品や日用品をお届けする移動販売車「スマイル号」での移動店舗事業をスタートさせました。

同JAでは、平成26年（2014年）3月より、地域の利便性を向上させるため、本会を通じて山崎製パン株式会社と提携し、ライフライン店舗（ヤマザキYショップ）の運営に取り組んでいます。今年度からはこの取り組みをさらに充実させるため、移動店舗事業に取り組むことを決定しました。

「スマイル号」は、食料品や日用品のほか青果物等の販売もおこなうとともに、巡回している上那賀地区の高齢者の方々の安否や地域の安全を確認する「地域見守り隊」としての役割も担っており、JAの新しい生活購買サービスとして住民の方々から大変喜ばれています。



上那賀地区を巡回する移動販売車「スマイル号」



次々購入に訪れる地域の方々

マンスリーレポート

～堆肥を使用した水稻栽培の普及へ～

堆肥入り水稻一発肥料 (エコケッコ～一発) 実証試験

6月18日、当県本部肥料農薬課と営農支援課はJA美馬・田中浩司副参事の水稲圃場(美馬町)において、堆肥入り水稻一発肥料「エコケッコ～一発」の実証試験をおこないました。

「エコケッコ～一発」は、堆肥と化学肥料を混合した水稻一発肥料で、肥料効果にプラスして環境負荷低減や地力増進効果が見込まれています。

今回の実証試験で、堆肥の施肥量と水稻の生育、収量、土壌の性質などの関係を検証し、水稻における堆肥を使用した施肥体系の確立を目指していきます。

当県本部では、堆肥等の国内資源の利活用による化学肥料の提案とコストの低減に取り組み持続可能な環境調和型農業の実現と安定した食糧生産に貢献していきます。



堆肥入り水稻一発肥料(エコケッコ～)



実証試験を行った水稻圃場

～京都祇園祭などの縁起花～

JA名西郡(神山町)で日扇(ヒオウギ)の出荷最盛期

JA名西郡管内の神山町では、京都祇園祭の縁起物として飾られる日扇(ヒオウギ)の出荷が最盛期を迎えています。

取材日の6月30日、JA名西郡神山センターに、生産者が栽培した日扇50本入りの出荷箱が次々搬入され、同センターの森本隼毅職員が一箱ずつ丁寧に葉を選別し、出荷をおこなっていました。

神山町で日扇の生産が始まったのは1955年(昭和30年)からで、栽培環境が適していることと、祇園祭の需要期に出荷の最盛期を迎えるような栽培体系を確立したことにより、現在では生産量日本一となっています。

管内の生産者は8人で栽培面積は約20アール。本年度の生産量は約3万5千本を見込んでおり、関西市場を中心に6月下旬から7月中旬まで出荷される予定です。

森本職員は「今年は天候不順などにより厳しい栽培環境でしたが、品質は例年並みとなっています。日扇は祇園祭りを彩る縁起ものとして愛用されており、神山町では今後も生産を絶やさないよう、移住者の方々にも栽培を積極的に働きかけていきたい」と話していました。



確認作業を行うJA名西郡神山センター森本隼毅職員



生産量日本一神山町の日扇(ヒオウギ)

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

大阪の小学生が農産物の食育学習

当県本部は子どもたちが農産物の栽培体験を通して食の大切さを学び、健全な食生活を実践できる人に成長することを支援するため食育学習会を実施しています。

6月9日は、大阪南部合同青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪府堺市の市立原山ひかり小学校と市立槇塚台小学校において生徒にJA里浦より提供していただいたさつまいもの苗の植え付けを体験してもらいました。

◆市立原山ひかり小学校

参 加 者：4年生51人

学習内容：さつまいもなどについての食育、定植方法

9:30～ 大阪南部合同青果株式会社の中谷泰明社長が大阪府の農産物についてクイズを交えての説明。

大阪府では「デラウェア」「茄子」が有名なことを学んだ。

10:00～ 当県本部大阪事務所の平嶋優皓職員がクイズを交えて、なんと金時の特徴について説明。

11:00～ 植え付け体験

校内の圃場で中谷社長と平嶋職員が定植方法を再び説明。生徒一人ひとりに芋苗を配布し、中谷社長と平嶋職員、当県本部大阪事務所吉川勝技術主管の補助のもと植え付けをおこなった。

11:30 終了

生徒たちはさつまいもや大阪府の農産物にとっても興味を示し、熱中症に気をつけながら楽しく植え付けを学びました。



説明を行う大阪事務所の平嶋優皓職員(左)と大阪南部合同青果株中谷泰明社長(市立原山ひかり小学校)



定植作業を行う生徒(市立原山ひかり小学校)



元気づくクイズに答える生徒(市立槇塚台小学校)

◆市立槇塚台小学校

参 加 者：5年生68人

学習内容：さつまいもなどについての食育、定植方法

13:30～ 大阪南部合同青果株式会社の中谷社長が現在の世界人口と食品ロスについての説明。

13:50～ 当県本部大阪事務所の平嶋職員がクイズを交え、なんと金時の特徴について説明。

14:50～ 植え付け体験

生徒一人ひとりに芋苗を配布し、中谷社長と平嶋職員、吉川技術主管の補助のもと、マルチ掛けされた圃場でマルチを切って穴を掘り、丁寧に植え付け作業をおこなった。

15:30 終了

生徒たちはクイズを交えた楽しい授業やさつまいもの植え付け体験で食の大切さを学びました。



定植作業を行う生徒(市立槇塚台小学校)

マンスリーレポート

～徳島県×JA全農とくしま×ハウス食品で共同提案～

徳島県産食材の消費拡大推進活動 「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」 キャンペーン

7月11日～8月31日までの52日間、徳島県、当県本部およびハウス食品株式会社は、徳島県産食材を使用した地産地消企画「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」キャンペーンを共同で実施しています。

これは、ハウス食品株式会社が全国で展開している地産地消キャンペーンの一環で、地産地消の推進と徳島県産食材の消費拡大を図るための活動です。

「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」は、同社商品のバーモントカレーをベースにスダチやナス、オクラ、トマト、エダマメなどの徳島県産の夏野菜を具材とし、食味だけでなくカラフルな色合いも楽しむことができます。また、スダチ果汁をカレーにかることで、爽やかな香りと風味で暑い夏を元気に乗り切れるメニューとなっています。

キャンペーン期間中は、同社商品のテレビCMや徳島県内スーパーの店頭で「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」を大々的に紹介し、一般消費者へ県産野菜の消費拡大を呼びかけます。



「徳島野菜と阿波尾鶏のすだちカレー」
キャンペーンの発表を行う関係者



営農コラム

真夏の花木

営農支援課 技術主管 森 聡

真夏に花の咲く花木といえば、サルスベリ、ノウゼンカズラ、ムクゲ、それにキョウチクトウが思い浮かびます。うだるような暑さ、人も草木も身に堪える真夏の時節に、これらの花木は暑さをものともせず元気に花を咲かせます。

サルスベリは縮れた花びらの小さな花を房状につけた見ごたえのある美しい樹姿をしています。「百日紅」の別名どおり開花が長期にわたります。色は赤、紫、白が代表的です。特に、赤のサルスベリは情熱的で、炎天下の中で際立っています。

ノウゼンカズラは暑い盛りに、ひときわ目を引く濃いオレンジ色の花を上へ横へといっぱいに咲かせます。つる性植物で、気根を出して木や壁などを這い上り、枝葉を生い茂らせながら、夏の期間中花を咲かせ続けます。

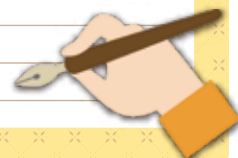
ムクゲは暑い盛りに、次々と大きな花を咲かせる盛夏を彩る代表的な花木です。ハイビスカスなどと同じフヨウ属ですが、フヨウ属の中では寒さに強いため、日本だけでなく欧米でも夏咲きの花木として親しまれています。

フヨウはムクゲよりやや遅れてムクゲによく似た花を咲かせます。ピンクや白の大きな花を付けます。赤い花の咲くアカバナフヨウというアメリカフヨウとの交雑種もあります。フヨウは朝咲いて夕にしぼむ一日花ですが、長期間にわたり次々と開花します。

ムクゲとフヨウはよく似ていますが、ムクゲは枝を直線的に上に伸ばすのに対し、フヨウは多く枝分かれして横に広がります。また、フヨウの葉はムクゲの葉に比べて大きいことでも区別できます。

キョウチクトウは以前ほどには見かけなくなりましたが、高木に赤や紫、白の花をいっぱい咲かせた樹姿は遠目にもよく目立ち、暑い中での華やかさが感じられます。

強烈な太陽の日射しにも負けずに元気にきれいな花を木いっぱい咲かせるこれらの花木の生きようをみていると、真夏の暑さに負けない元気を分けてもらえますし、暑さを楽しむ余裕さえ生まれてくるように感じます。



料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します！



茄子ピザ



▼材料(2人分)

茄子 …………… 2本
 ベーコン …………… 50g
 玉葱 …………… 1/2個
 ピーマン …………… 1個
 トマトケチャップ …………… 大2
 ピザ用チーズ …………… 適量
 オリーブオイル …………… 大1
 バジル(お好みで) …………… 適量

▼作り方



① 茄子は縦半分に切って
 さいの目に
 切り込みを入れ、
 水に放ち水気を取る。



② 切り込みを入れた面から
 オリーブ油で焼き、
 裏返してトマトケチャップを塗る。



③ 上に玉葱、ピーマン、
 ベーコンの薄切りと
 ピザ用チーズをのせ、
 蓋をして中弱火で
 3分程焼く。

POINT

茄子はあくがあるので
 切ったら水に浸し、水
 気を取ります。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
 ◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー（姫路、加古川、明石の3店舗）講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

うまいもノ絵日記



文：濱堀秀規 イラスト：ちっちゃん

その146 ～ニコニコすだちくん～

◆クリープのないコーヒーなんて…。◆

世間では、ケーキのない誕生日なんて…。スイカのない夏なんて…。得点が入らないサッカーの試合なんて…。釣船が出ない暴風日なんて…。ベースがない音楽バンドなんて…。ネタがない漫才なんて…。緑色でない「すだち」なんて…。と同じだ？

の供給が始まる品種である。名前は勝浦町のスダチ園で品種改良されたので「勝浦1号」である。国に品種登録したばかりだから、スダチの苗木が大きくなり、実をならすのは3～4年先になるが、期待の新品種である。

1年中濃い緑のスダチ供給が強化されるので、大いに期待がもてる新品種である。すごいぞ農業研究所。

◆1年中緑色◆

7月現在、スダチはハウスものが出回っている。8月下旬～9月の露地もの最盛期まであと少しである。その後は、貯蔵ものが中心となる。

スダチは1年中緑色だと認識されているが、本来は時間がたつと、黄色くなっていくものである。冷蔵庫で長期間保存していれば、黄色くなり、酸が低下して、味もまったりとなる。黄色いスダチでも、ドレッシングスダチポン酢で十二分においしいのだが、黄色くなったスダチを皆さんは処分しているだろうか。こんな風に、黄色いスダチはスダチとしてのイメージがわからない人も多い。

◆笑顔のスだちくん◆

コロナ禍で飲食店需要が落ち込み、販売が厳しかったスダチ農家をはじめ関係者達にも、新品種の登場により、徳島県のキャラクターすだちくんの笑顔の様に、気がかりがなく、心情が晴れ晴れとして、愛くるしい笑顔が戻ってくるものと期待している。私も、休日には釣りに行って、焼き魚にスダチをギュッと搾るとするかな。それでは、釣りの準備じゃ、マルキューのエサと竿とリールに。そして釣りに、飲料水の「ザすだち」と「すだち微炭酸」も忘れずにね。

◆新品種「勝浦1号」◆

スダチは1年中緑色で出荷するのが定番になっている。そのために、加温ハウス超促成栽培→無加温ハウス栽培→露地栽培→貯蔵とリレーして1年中緑色をつなげている。そのスダチの貯蔵物に救世主が現れた。それは、緑が濃い～の。長期間貯蔵しても緑が濃い～ままの品種を徳島県の研究所が開発した。数年後に正式に品種登録されて、苗



交通安全のお知らせ

交通マナーアップ推進県民運動

県民一人一人が、人優先の交通安全思想を基本として、「ゆずる心」と「待つゆとり」を持ち、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に努め、実践することにより交通事故の防止を図ることを目的とした県民運動が開催されます。

1 運動期間

交通マナーアップ推進県民運動

令和4年7月1日(金)から同年8月31日(水)までの2か月間

○全席シートベルト着用の推進月間

令和4年7月1日(金)から同年7月31日(日)までの1か月間

○運転中の携帯電話等使用撲滅月間

令和4年8月1日(月)から同年8月31日(水)

までの1か月間

2 運動の推進項目

- (1) 歩行者保護の推進及び飲酒運転等悪質危険運転の根絶
車や自転車を運転するときは、人優先の意識を持って安全運転の徹底を心がけましょう。また、飲酒運転、あおり運転等危険な運転行為は絶対にやめましょう!
- (2) 全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
車に乗る際は、シートベルトを正しく着用するとともに、同乗者(後

部座席を含む)にも確実にシートベルトを着用させ、チャイルドシートは正しく取付け、着用を徹底しましょう。

- (3) 運転時等における携帯電話等の使用禁止

車や自転車の運転手は、運転中にスマホや携帯電話の使用をやめましょう。また、歩行者においても歩きながらのスマホや携帯電話の使用しないでください。

3 マナーアップ宣言

交通マナーアップ宣言

わたしたちは

- 1 歩行者の保護に努めます。
- 2 飲酒運転は絶対にしません。させません。
- 3 全席でシートベルトを必ず締めます。締めてもらいます。
- 4 運転中はスマホや携帯電話を使用しません。

徳島県警察本部 交通企画課



令和4年度全農徳島県本部OB会総会

6月22日、全農徳島県本部OB会は「令和4年度全農徳島県本部OB会総会」を徳島市内のホテルで開催し、会員など34人が出席しました

3年ぶりの開催となった総会は、吉本耕一OB会会長、長江郁哉県本部長のあいさつの後、慶弔基準にともない満80才を迎えた前田清氏に記念品の贈呈をおこないました。続いて①令和3年度事業実績および収支決算、②令和4年度事業計画および収支予算についての協議がおこなわれ、出席者全員一致で承認されました。

総会に引き続き開催された懇親会では、吉本会長の音頭で乾杯をおこない、久しぶりの再会に会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。



あいさつを行う吉本耕一OB会会長

JAタウン「新鮮大好き徳島」今月のおすすめ



JAタウン「新鮮大好き徳島」では、今年も徳島県産スダチの販売をしています。すがすがしい香りとさわやかな酸味、徳島県の誇るスダチを全国にお届けします！

販売期間：7月～12月



アクセスはこちら! JAタウン「新鮮大好き徳島」
<https://www.ja-town.com/shop/c/c7001/>

新鮮大好き徳島

検索



退職

令和4年6月30日付

氏名	部署
佐々木 和平	米穀畜産部 米穀総合課

我国最高の紙袋 **インライン** 製造システム
省資源タイプで強靱な **サト-クロス** 多層FILM

【営業品目】◆重包装用紙袋 ◆ポリ重袋 ◆樹脂クロス袋 ◆精米袋 ◆クロスラム
◆ストレッチフィルム ◆化繊袋（ネット袋） ◆フレキシブルコンテナバッグ



佐藤産業株式会社

URL: <http://WWW.satoh-sangyo.jp/>

**SATOH
SANGYO
GROUP**

本社：東京都文京区本郷1-4-4(佐藤ビル) TEL(050)3823-4056 FAX(03)5684-7114
大阪支社：神戸市東灘区住吉浜町18番地 TEL(050)3823-4062 FAX(078)811-2343
営業部店：東京営業部(050)3823-4057 名古屋営業部(050)3823-9340
大阪営業部(050)3823-4063 福岡営業部(050)3823-9342
営業所：秋田・山形・福島・千葉・水戸・金沢・岐阜・福井・兵庫・岡山・徳島・大分・鹿児島
工場：秋田・石岡・成東・各務原・福井・神戸・新見・鹿児島
関連企業：株式会社サト-東京・水戸・南コスモプランニング・株式会社興産・関ヶー・パッケージ

みんなが
トクする

JAでんま

JAだから

簡単!

安心!

安い!

JAでんまとは

組合員のみなさまが日々ご利用されている電気の料金をお安くするために、JAグループが取り扱う電気です。切り替え簡単、JA口座をそのままご利用できます。

実施中!
おトクキャンペーン
最大 3,000円

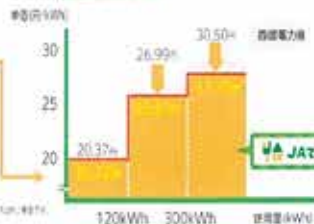
JAでんまへの新規お申込みで
3ヶ月間 毎月1,000円(税込)おトク!

料金メニュー (従量電灯Aの場合)

JAでんまの料金体系



従量料金単価(円/kWhあたりの料金)



切替えによるおトク額① (上記の場合)

	2人家族	4人家族	6人家族
月間使用量	300kWh	400kWh	500kWh
月間電気料金	7,489円	10,539円	13,589円
従量電気料金	7,297円	10,072円	12,847円
JAでんま 年間お得額	年間 2,304円お得!	年間 5,604円お得!	年間 8,904円お得!

組合員の皆さん!
電気代見直しませんか?

JAでんまに切り替えると

< 4人家族の場合 >

約5,600円 もお得に!

※1: 上記はご家庭で契約される一般的な料金メニューによる試算です。
※2: お得額は大手電力会社の従量メニューとの比較です。
※3: 使用量・プランによってはお得額が異なります。

詳しくは、JAでんま ホームページまで

JAでんま 検索

<https://zabunoh-mw.jp/wa/02/01-0010/>

JAグループ/ 全農

共同購入 トラクター SL33L

おかげさまで、
JAグループの受注台数
2,500台突破!
全国から
共同購入への結集、
ありがとうございます。

生産者の
営農規模と
栽培品目の拡大を
支援する

JAグループは生産者の需要を取りまとめ、一括発注を行うことで、
メーカーは製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元します。

ご注文いただいてから納品まで**3ヶ月**かかります。
令和5年3月までにご注文をお願いします

JA全農耕種資材部
農業機械課公式チャンネル





徳島の なし

シャリッ
と
ジューッ
と
たまごころです

JA全農とくしま・徳島県なし消費拡大協議会



幸水は酸味が少なく甘みが強く、果肉はやや柔らかいので食べやすいです。幸水は7月中旬から8月中旬、豊水は8月中旬から9月中旬まで出荷しています。



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

